

実施期間：2014年1月～2016年3月

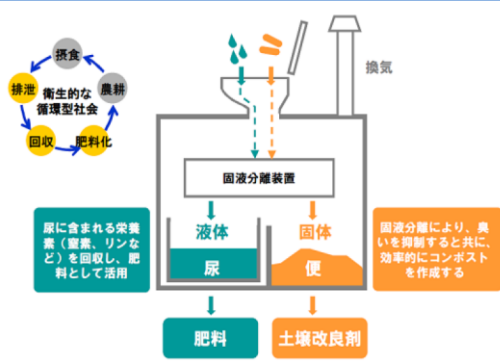
ケニア国の開発ニーズ

- ケニア非都市部では下水道整備は大幅に遅れており、約2,100万人が劣悪な排泄環境下にある。
- 衛生環境や自然環境の改善・保全に向け、従来型の建設が困難な非都市部に適合した新たなサニテーションシステムが求められている。

普及促進事業の内容

- 非都市部を対象に、主として中間層をターゲット顧客として、循環型無水トイレシステムを展開
- プロジェクトサイトでの実運用試験の実施と結果分析
- 実運用試験の結果をもとに、現地の風土・慣習に合うように商品及びビジネスモデルを改良

提案企業の技術・製品



循環型無水トイレ 「グリーントイレシステム」(GTS)

- ・トイレの床下の装置内で、し尿をバクテリア発酵分解する固液分離式循環型トイレ
- ・排泄物の貯留、回収、堆肥化までのプロセスを標準化し、排泄物を肥料として有効に利用

ケニア側に期待される開発効果

- 排泄物の無害化、堆肥化による水源・土壌汚染の抑制と環境保全への貢献
- 生成された肥料の活用による、農作物収穫量の増加
- GTSによる、回収～堆肥化プロセスでの新たな雇用機会創出及び取得向上

日本企業側の成果

事業前

- 水も排泄物処理もない地域の衛生問題の根本解決に向けて、2008年から研究着手。水を使わずに排泄物を運搬し、肥料として処理する循環型の仕組みを開発。

事業後

- ネットワーク構築や商品・ビジネスモデルのブラッシュアップにより、次のビジネス機会に繋がる基礎ができた。
- 国連人間居住計画(国連ハビタット)との契約を獲得し、ケニア・カロベイエイ難民居住地にて、衛生環境改善と難民の自立支援への取り組みを開始。